



優秀賞 (居室部門)

タイトル

中古マンションに本格和室を

タイプ

持家共同建

講評

集合住宅の最上階で、ほぼ中央部分にもともと中庭のあるマンション。大部分の居室から庭を眺められる作りになっている。その通路と和室のつらえを工夫したリフォーム。おそらく既存の排水があったと思われる。

リフォーム前後の写真



A 和室へのアプローチ

和室へ導く「苑路」は、あえて中庭からの光を閉ざし、間接照明を用いて、大谷石の並ぶ通路が印象的に浮かび上がるように設計。狭く陰った場所から、和室へと導かれる際の転換の妙味も狙いである。



B 中庭

和室から見ると中庭。常緑の杉苔が美しい築山、水の流れるつくばい、庭石など、和風庭園の趣を存分に活かした。夜間にはライトアップされ、また違った風情を楽しむ。



リフォーム前の和室。中庭は洋風のスタイルだった。



D

E

C 和室

建具はすべてこの家のためのオーダーメイド。繊細な駝格子はウォールナット色とし、落ち着いた色合いにした。床の板張り部分も同色でつらえている。



D 和室

柿渋染めの和紙で仕上げた床の間、縁なしの和紙畳、格子の建具など、和のアイテムを使いながら、伝統にとられないモダンなスタイルを実現。床脇や窓下の収納の下部にも間接照明を設け、陰影をもたせた。



E 和室

「庭を眺める和室」として、畳に座した際の視線の高さを考慮して、植栽や築山を設けた。本来ゲストルームだが、「とても落ち着くので、主人がひとりでくつろぎたい時にも使っています」と奥さま。

リフォームの動機/設計・施工の工夫点/施主の感想 など

購入された中古マンションのペントハウスを、好みに合わせて全面的に改装された施主さま。主におもてなしに使う和室は、モダンなデザインで落ち着いた雰囲気にした、とご希望があった。オーダーメイドの建具は格子をウォールナット色とし、床の間は柿渋で染めた和紙を張るなど、上質感のあるモダンさを追求。空間のバランスを考慮し、天井の高さを2250ミリにするために床を上げた。これにより中庭を眺める視線も最適な位置となり、「座の和室」として、よりいっそう落ち着いた空間が実現している。

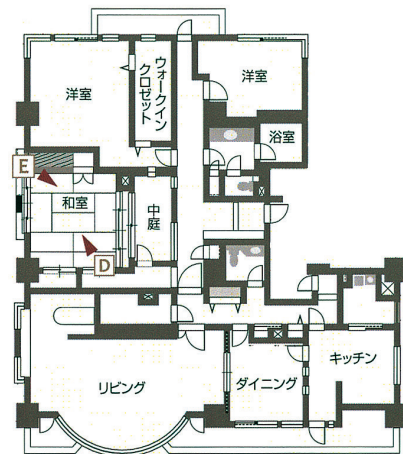
特に配慮した住宅性能：珪藻土など自然素材を多用した。

データ

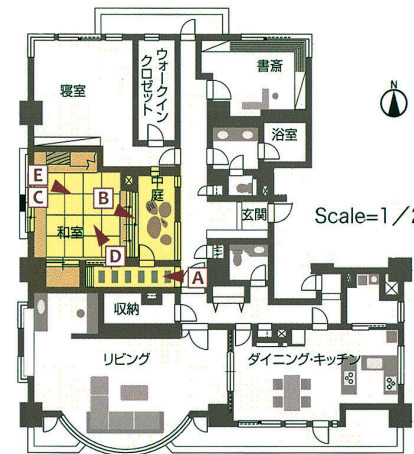
所在地	大阪府大阪市	構造/築後年数	鉄骨鉄筋コンクリート 造 / 13 年
該当工事面積	36 m ² / 総工事床面積 230 m ²	該当部分工事費	1,000 万円 / 総工事費 8,190 万円
居住者構成	15歳以上65歳未満： 2 人 / 65歳以上： 1 人 / 15歳未満： 人 / ベット： 人	設計会社	住友林業ホームテック(株)
設計会社	住友林業ホームテック(株)	担当者	須崎 太郎
施工会社	同上	担当者	鶴飼 敏祐

既存の中庭は、ご主人のアイデアである「和室からは和の庭、玄関からは洋の庭」に合わせてリフォーム。畳に座るとつくばいや杉苔が目に入るよう配置している。また、専用の通路から和室に至る間取りはそのまま活かし、和室に合わせたモダンな表情に。余計な飾りを排し、奥へと導かれる期待感を高めた。「つくばいの水音を聞きながらゆっくりおもてなしできるので、お客さまにはとても好評ですね。四季の風情が心地よくて、私たちもくつろげます」と施主さまからは満足のお言葉をいただいた。

リフォーム前



リフォーム後



Scale=1/250